

全国農業経営者研究大会から

①

全国農業経営者協会は1月28、29の両日に東京で第49回全国農業経営者研究大会を開いた。全体会、米政策分科会、都市農村交流分科会の様子を、3回にわたりに紹介する。(文責・編集部)

農福連携

全体会ではアルファイノベーション(株)の山田浩太代表(45)が「障がい者の能力発揮による農・福・商の相互成長」をテーマに講演した。同社は埼玉県白岡市の12社で青ネギ、九条ネギ、白ネギを生産。出荷・調製はグループ会社の就労支援施設NPO法人めぐみの里に委託し、業務用として約50社に出荷している。

埼玉・アルファイノベーション 作業適性見極める



山田代表は「人手不足で単調作業が多いとされている農業。一方で、障がい者の仕事は不足し、単調な連続作業は比較的得意とする。補充しあえる関係で相性がいい」と話す。山田代表は、かつて経営コンサルティング会社に勤務し、約60社の農業参入を支援。その中で、2012年に農福

障がい者と補充しあえる関係

連携による経営展開を目指し同社を設立した。同法人の福祉就労分野は、月額の人件費を支払いながら、雇用契約を結んで一般就労することが困難な障がい者を支援する「就労継続支援B型」。現在45人が利用し、1日平均の人数は32〜35人だ。創業以来、毎年平均1人ずつを一般就労につなげることに成功している。

就労支援にあたり、作業適

業」をある程度分けておくことで、作業の段取りが組みやすくするという。

障がい者が安全で働きやすい環境を整えることで、職場全体が働きやすくなる効果もあった。それでも山田代表は「安全性を重視するあまり、必要以上に過保護にはしないようにしている。目標は一人でも多く一般就労につなげていくこと」と話す。

グループ全体の最大の目標

性を見極めることに注意している。そのために、大切なのがあゆみ寄りの姿勢を持つこと。同時に具体的かつ定量的な取り決めをしておく必要があると語る。「障がい者が行う作業」と「健常者が行う作

「商品が正当に評価される」とが大切」と話す山田代表

は、顧客に品質のよい商品を提供し、約束した出荷量を守る。山田代表は「出荷する農産物に、障がい者の関わりは関係ない。お客さまに商品として正当な評価をしてもらうことが大切だ。農・福・商それぞれにメリットのある三方良しを心がけている」と締めくくった。